

安全データシート (SDS)

1. 製品及び会社情報

会社名	株式会社エーゼット
所在地	大阪市鶴見区茨田大宮 1-7-59
担当者	営業部
電話番号	06-6915-3501
FAX 番号	06-6915-1202
緊急連絡先	住所に同じ
作成日	2011/08/06
改訂日	2018/02/14

製品名：HS シリコーンスプレー ブルー

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

引火性、可燃性エアゾール	区分 1
健康に対する有害性	
皮膚腐食性及び刺激性	区分 2
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	区分 2
生殖毒性	区分 2
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分 3 (麻酔作用、気道刺激性)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分 1 (神経系)
吸引性呼吸器有毒性	区分 1
環境に対する有害性	
水生環境有害性(急性)	区分 2

※記載のない項目は「区分外」、「分類対象外」、「分類できない」のいずれかである

GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語 危険

危険有害性情報

H222：極めて可燃性又は引火性の高いエアゾール
 H229：高压容器
 H315：皮膚刺激
 H319：強い眼刺激
 H361：生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
 H335：呼吸器への刺激のおそれ
 H336：眠気やめまいのおそれ
 H372：長期にわたるまたは反復ばく露による臓器(神経系)の障害
 H304：飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
 H401：水生生物に毒性

注意書き

応急措置	p.2 に記載
取り扱い	p.2 に記載
保管	p.2 に記載

3. 組成及び成分情報

化学物質、混合物の区別	混合物
成分	石油系溶剤(10～20%)、シリコーン、噴射剤(LPG)
CAS No.	企業秘密のため非公開
国連番号及び国連分類	1950、クラス 2.1

4. 応急措置

吸入した場合：	新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。必要なら医師の手当を受ける。
飲み込んだ場合：	口をすすぐ。無理に吐かせない。医師の手当を受ける。
眼に入った場合：	水でよく洗う。コンタクトレンズを装着している場合固着してなければ外す。十分、洗浄後、医師の手当を受ける。
皮膚にかかった場合：	水と石けんで十分、洗う。衣類が濡れた場合、直ちに着替える。濡れた衣類を再着用する場合は洗濯する。 腫れ、痛みが生じる場合、医師の手当てを受ける。

5. 火災時の措置

消火方法：	速やかに容器を安全な場所に移す。 消火に棒状の水を使用してはならない。 初期の消火には下記の消火剤を用いる。
消火剤：	水、粉末、炭酸ガス、

6. 漏出時の措置

保護具（呼吸用保護具、化学防護服、手袋、長靴、眼鏡、マスク等）を着用する。
風上から作業する。
砂、おがくず、ウエス、新聞紙等に吸い込ませて、回収する。
土壌、河川、湖沼、海域、下水道等に流入しないように注意する。
浸透性及び揮発性があるので、付近の着火源になるものは速やかに取り除く。

7. 取扱い及び保管上の注意

取り扱い：	関係法令の定めるところによるほか、以下の点に注意する。 製品の使用中、飲食および喫煙しない。 熱、火花、火炎、高温のものから遠ざける。 必要に応じて呼吸用保護具、保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用する。 屋外または通気性が良い場所で使用する。 常温で取り扱い、その際、蒸気の吸入、原液との接触に注意する。 使用後は手洗いを十分する。 使用中も水分、異物が混入しないよう、できるだけ密閉する。
保管：	屋内の直射日光が当たらない涼しい場所で保管する。 ふたを必ず密閉する ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触、同一場所での保管を避ける。

8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	日本産業衛生学会	ACGIH(TLV-TWA)
ヘキサン	設定されていない	設定されていない	500ppm
n-ヘキサン	設定されていない	40ppm(140g/m ³)	50ppm

設備対策	排気装置を設けるか通気性を良くする。 身体洗浄、うがいができる洗浄設備を設置する。
呼吸用保護具	必要であれば防毒マスクを着用する。
保護眼鏡	必要であれば着用する。

[原液]	初留点	61℃
	外觀等	無色透明液体、溶剤臭
	揮発性	あり
	密度	データなし
	溶解度	水に不溶
	沸点	61~63℃
	引火点	データなし
	発火点	データなし
[噴射剤]	外觀等	無色透明液体
	揮発性	あり
	溶解度	水に不溶
	引火点	-90℃

可燃性	あり
酸化性	なし
自己反応性	なし
安定性	安定
反応性	強酸化剤との接触を避ける。

急性毒性	経口	分類できない
	経皮	分類できない
	吸入(ミスト)	分類できない
皮膚腐食性、刺激性		
眼刺激性		混合物の分類に基づき危険有害性区分を分類した。
感作性		混合物の分類に基づき危険有害性区分を分類した。
慢性毒性		有用なデータなし。
発がん性		有用なデータなし。
変異原性		混合物の分類に基づき危険有害性区分を分類した。
催奇形性		混合物の分類に基づき危険有害性区分を分類した。
生殖毒性		有用なデータなし。
		混合物の分類に基づき危険有害性区分を分類した。

魚毒性、蓄積性、分解性：混合物の分類に基づき危険有害性区分を分類した。

廃棄物処理法に従って自ら処理するか、産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合、そこに委託して処理する。

容器に漏洩、破損のないことを確かめ、荷崩れを起こさないよう確実に積み込む。
 関連法令に従った措置も講じる(品名、数量、火気厳禁の表示、消火装置の設置
 積み重ねの高さは3m以下にする等。)
 第1類及び第6類の危険物及び高圧ガスと混載しない。

消防法	・ ・ ・ ・ ・	第４類第１石油類　危険等級Ⅱ
労働安全衛生法	・ ・ ・ ・ ・	通知対象物質：ヘキサン、ブタン 表示対象物質：ブタン
PRT法	・ ・ ・ ・ ・	非該当
大気汚染防止法	・ ・ ・ ・ ・	中環審答甲の「有害大気汚染物質」：ヘキサン

水質汚濁防止法・・・・・・・・・・油分排出規制（n-ヘキサン抽出分として）
 海洋汚染防止法・・・・・・・・・・油分排出規制（原則禁止）
 廃棄物の処理および清掃に関する法律・・・産業廃棄物規制（拡散、流出の禁止）

16. その他

参考文献

1. 化学品の分類及び表示に関する世界調和システム(GHS)改訂 6 版（2015）
2. 日本規格協会 JIS Z 7253:2012、JIS Z 7252:2014
3. 独立行政法人 製品評価技術基盤機構(nite) [GHS 関連情報]
4. 各原料の SDS

注意事項

この安全データシート(SDS)は入手可能なデータをもとに通常の取り扱いを
 想定して作成したものです。
 SDS は安全の保証を約束するものではありません。
 取扱者は状況に応じて使用してください。
 SDS の内容は新たな知見により予告なく変更することがあります。
